

へき地等における管理薬剤師の兼務要件の明確化により、地域医療の継続に寄与

～へき地等における管理薬剤師の兼務要件の明確化～

地方に対する規制緩和

詳しくは提案募集方式データベース「30年」管理番号「7」で検索!

二次元コードからもアクセスできます



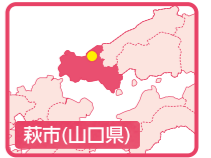
ポイント

へき地や離島の薬局の管理薬剤師が、他の薬局の薬剤師を兼務することが可能となることにより、地域の暮らしに必要な、身近な薬局の存続が図られ、住民が安心できる地域医療の継続に寄与

(通知 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第7条第3項に規定する薬局の管理者の兼務許可の考え方について(平成31年3月20日 薬生総発0320第3号))



薬局存続を望む住民の切実な声が提案に結びつき、地域医療の継続を実現

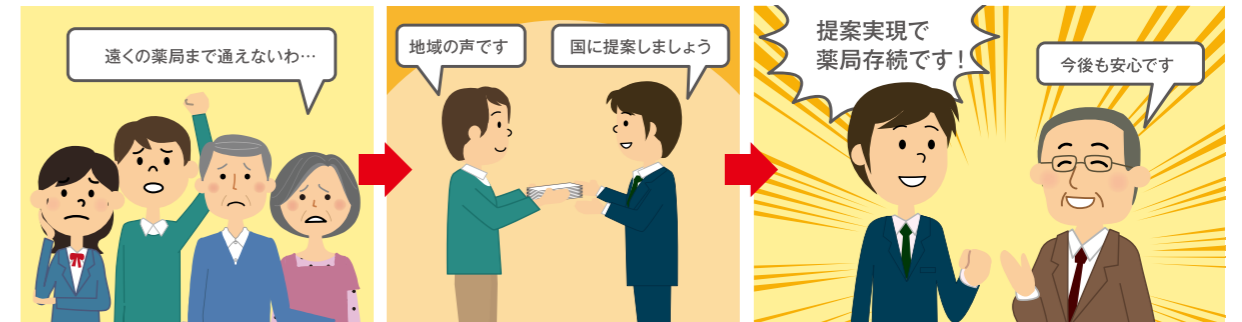


取組の概要

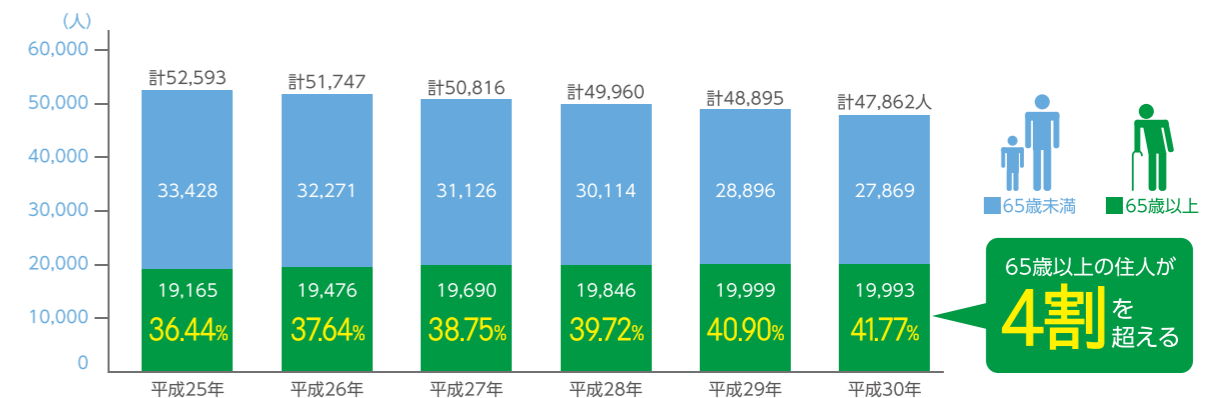
- 少子高齢化が急速に進むへき地では薬剤師の確保に苦慮しており、地域のために頑張っている薬局の存続や新規開局は困難な状況であった。
- 地域に密着した薬局がなくなると、地域住民はその都度、遠方の薬局に通わなくてはならなくなる。特に自動車等の移動手段がない高齢者にとっては生活を圧迫する重大な問題である。
- 平成29年10月2日、薬局から山口県知事に対し、薬局存続のため地域住民の約450名の署名を添えて陳情書が提出された。数日後、当該薬局から萩市長に対して、県知事への陳情書提出の報告と薬局の管理薬剤師の兼務許可について、県知事の許可が得られるよう協力を求める要請があった。
- しかしながら、兼務の許可がおりなかったため、萩市は提案募集方式を活用し、へき地や離島に所在する薬局の管理薬剤師が他の薬局の薬剤師を兼務できるよう提案した。

取組の成果

- 平成31年3月に厚生労働省から管理薬剤師の兼務要件を明確化した通知が発出された。へき地や離島の薬局の管理薬剤師が他の薬局の薬剤師を兼務できることが明確になり、住民が安心できる地域医療の継続に寄与することが期待できる。



萩市の高齢化率の推移





熱い思いで立ち上がった管理薬剤師の杉山氏(左)、スタッフの善本氏(右)



住民の健康に欠かせない地域の薬局

一度は諦めかけた薬局存続を提案が救ってくれた

関係者の声
薬局 管理薬剤師
杉山 正康 氏



故郷に貢献しようとこの地で開局し、最寄診療所の限られた診療日(週に2日間)は薬局を運営していましたが、へき地では薬剤師を確保することが困難で、管理薬剤師が他店舗への兼務ができないという規制は地域の薬局を存続させるには大変厳しいものでした。

県に相談しましたが、難しい状況は変わらず、断腸の思いで閉店の選択も考えざるを得ないところまで追い込まれました。しかし、地域のために貢献し続けたいと一念発起し、身近な地域医療を継続するための署名活動を始めました。想定を超える多くの方から署名をいただき、今一度住民の方々の思いをエネルギーに、薬局継続について萩市に相談したところ、内閣府の地方分権改革の提案募集制度を利用していただけることになり、へき地における管理薬剤師の兼務許可要件の見直しをしていただけました。

へき地での管理薬剤師が他店舗でも兼務できるようになったおかげで、今後も地域医療を継続できます。多くの関係者のご支援に感謝しています。

地域のお客様と接することが日々の活力になります

関係者の声
薬局 スタッフ
善本 政臣 氏



薬局の利用者のほとんどが近隣にお住まいの方です。特に高齢の方の利用が多く、近距離にある当薬局は親しまれております。私自身、顔なじみのお客様と接することが日々の活力です。丁寧で分かり易い接客を心がけ、これからも地域の皆様に必要とされる薬局であり続けるよう頑張ります。



薬局が近隣にあることは地域住民の安心に直結

薬局の努力と地域の声を聞く行政に感謝

関係者の声
利用者Aさん



夫婦でこの薬局を利用しています。月に1回、心臓のお薬をもらいに来れています。加齢とともに薬の服用が必要となり、自分は運転ができないので近くに薬局があると大変便利です。一時は店舗経営が難しいと聞いておりましたので、とても不安に思いましたが、薬局のご努力と地域の声に耳を傾けていただいた行政の皆さんのおかげです。

身近な薬局であり続けてほしいです

関係者の声
利用者Bさん



この近くに住んでいますが、足が悪いので薬局へ行くときは家族に連れてきてもらっています。薬局が近いので今は快く協力してもらっていますが、できるだけ家族に迷惑をかけたくないのが実情です。是非これからも身近な薬局として続けてほしいと願っています。